

第118回日展

第5科（書）審査所感

審査主任 高木聖雨

今回展の第五科の応募点数は9,059点、昨年度よりも397点の大幅な増加がありました。ここ数年で最も多い応募点数で、「日展の書」の盛り上がりを見る思いが致します。当然ながら、それに伴う入選率は約12.5%とやはり厳しいものでした。この狭き門に挑んでいただいた出品者の皆様に敬意を表し、今後も継続、挑戦していくことを望んでおります。

審査は例年通り公明正大に行われ、多くの素晴らしい作品から入落選定をせねばならないのは大変なことでした。日展は多くの書家にとって憧れの場であり、日々の修練の成果を発揮できる展覧会だと考えております。したがって、展観される作品はどれも技術が高いものばかりで、そういった作品群が会場に一種の崇高で品格ある空気感を生むのだと感じます。

書が語られる際、古来より多くの論者によって書者の精神性や人間性の発露、無為・卒意が、表層にある技巧より優位に語られます。もちろんそれらは技法の習熟を経て辿り着く境地との解釈もありましょうが、ここではあえて「日展の書」に足りないものと自戒を込めて申しておきます。公募展は技術を競う場でもありますが、それだけでは書の魅力を伝えるには不十分です。今回展、未完成ながらも生き生きとし、チャレンジ精神に溢れる作品が多く見られたことは嬉しく思う一方、技術にのみ固執した作品にはやや物足りなさを感じました。技術を超越し、感覚に訴えるいい書、熟中の生を感じられる作品がもっとあっても良いと考えております。

搬入数	9,059点
入選数	1,136点
(内新入選)	172点